

僕は、8月4日～8月10日NI石川県能登半島で開かれた第17回日本スカウトジャンボリーに行きました。ジャンボリーとは、全国各地からボーイスカウトが集まって、様々な体験や交流会をします。そして、経験を積んだり友情を深めたりする4年に一度の大きなイベントです。

8月3日の夕方に、福岡空港からバスに乗って出発しました。バスの中での車中泊だったけれど、ほとんど眠れませんでした。

そうしているうちに、会場に到着しました。まず、荷物を運びました。そして、テントをたてました。しかし、地面が砂っぽかったので、たつのかなあと思いました。奥の方までペグをさせば無事たちました。

1日目の夕食は、中華丼と玉ねぎスープ、オレンジでした。中華丼はレトルトで、玉ねぎスープは具を入れるだけでした。オレンジに関しては皿に置くだけだったので、ご飯作りには、あまり苦労しませんでした。

しかし、その後の食器洗いに苦労しました。まず、自分達のテントがある場所に蛇口があるわけではありません。蛇口は共同で、バケツやタンクに汲んでないといけません。水をリヤカーで運ぶのは重いですが、ラッキーなことに僕達の隊は、水汲み場に非常に近い場所でした。食器の洗い方は、まず、洗剤を混ぜた水に食器をつけて汚れを取ります。次に水を入れたバケツですすぎます。そして、消毒液に食器をつけて終了です。

ところで僕達の隊は、水汲み場に近い場所でしたが、他にもトイレやシャワーも近い場所でした。しかし、シャワーは每晚使えるわけではなく、2日に1回ぐらいで使いました。多少体はベタベタするけれど、大丈夫だと思っていたのですが、足をまともに洗っていなかったのが、水虫になってしまいました。大会期間中はそこまでかゆくなかったのですが、帰りのバスの中でとてもかゆかったです。

4日目には大集会がありました。皇太子殿下や宇宙飛行士の野口総一さんが来られていて、とても驚きました。その後は、各地域の出し物がありました。出し物と言っても、はしご乗りや沖縄のエイサーなど、驚くものばかりでした。

そして、終盤には、「吉田山田」さんの生演奏でした。聴いたことがあるような曲が多く、楽しかったです。

東京の人と交歓会をしました。交歓会というのは互いに出し物をしたり、話をして交流することです。そこでワッペンを交換するのですが、僕はワッペンをあまり持っていなかったのが、福岡名物の明太子味のふりかけを交換しました。

すると、ワッペン以上に人気があり、手作りの手ぬぐいをくれたスカウトもいました。さらにホンコンのスカウトとも交換することができました。交換した

ワッペンは、家の壁に飾ってあります。

そして、友情ゲームというものをしました。これは、各地域ごとに「そ」「な」「え」「よ」「つ」「ね」「に」のカードが配られます。僕達の九州は、「に」でした。そして、「に」以外のカードを持っている人たちを探して、最終的に「そなえよつねに」の言葉ができたらクリアです。僕は、もう4人そろっているところに入れてもらいました。そしてあと2人もすぐにそろってクリアできました。その後にワッペンやバッジを交換して別れました。翌日は缶バッジを交換した人と、ばったり会いました。

5日目には、福岡や埼玉、京都などの隊と交歓会をしました。そこで小学五年生くらいの時に文通をしていたボーイスカウトの友達と会いました。この友達とは、2日目に道でばったり再会しました。とても嬉しかったです。この交歓会でも色々と物を交換し、中には自分の隊のオリジナルシャツをくれたスカウトもありました。いろいろなスカウトと仲良くなることができました。

6日目は、朝にスカウトタウンというものをしました。これは、一人が普段の生活ができるありがたさなどの話をして、みんながそれを聞くものです。僕はこれで話をしました。上手く行って良かったです。

午後は、テントまで片付けて、フライの下でみんなで寝ました。

翌日は、荷物を片付けて、十時にはバスに乗って帰りました。

僕は、このジャンボリーを通して一つ学んだことがあります。学んだ事は、日常生活がいかに便利かっていうことです。キャンプ生活では、料理をかまどで作る、水を汲んでこないといけません。家ではガスコンロで、火の調節も簡単です。そして蛇口をひねれば水が出ます。この当たり前の生活に感謝することがとても大切だと思います。

僕は、この貴重な経験をこれからの生活に生かし、大人になっても決して忘れません。

2017 日本ジャンボリー

私は8月3日から11日まで 石川県能登半島で 開催される日本ジャンボリーに参加して来ました。

石川県の能登半島は どちら辺にあるのだろうと事前にしらべた所 日本の 丁度 真ん中あたりに位置してました。

福岡から夕方出発して2日目のお昼くらいに能登に到着。

到着時は お腹が痛くなり 不安な気持ちでしたが 徐々に良くなり活動に参加出来ました。

テント設営後には 夕飯の準備に取り掛かり皆で美味しく食べました。

開会式では 色々なイベントやショーがあり 初めてのライブも体感し私もそうですが 皆も とっても楽しんでいました。

次の日は 皆で自分達の 「門」を立てました。

カメラマンに撮影してもらいました。

活動の中で 丸太切りも体験しました。コレは皆の力が必要で切り終わるまでに7分28秒掛かりました。

その他に 友情ゲームは他の団のスカウト達とで『そなえよつねに』の7文字を完成させるゲーム とても楽しかったです。

最終日が近づく中で 2回目の集会に 宇宙飛行士の野口聡一さんと 皇太子殿下が 来られました。

野口さんは 第5回のジャンボリーを経験されたそうで その後は 今年のジャンボリーを含め 10回は訪問されてるそうで ビックリしました。

来年 宇宙に行くテストがあるそうです。

野口さんの『次は 宇宙で会いましょう』と言う言葉がとても印象深かったです。

皇太子さんは 小さい頃にジャンボリーを経験しており 今でも覚えているそうです。

色々やる事があり大変でしたが満点の星空も見ることができ 良い経験が出来たと思います。

石川県を出て福岡に着くと両親が迎えに来てくれました。

帰宅後は「やっぱり家は楽だなあ～」と思いました。

岩本 璃那

17 NSJジャンボリー

福岡20団 吉野 玲央

僕がジャンボリーが終わって感じたことは、きつかったけれど、楽しかったということだ。

最初は、うまくキャンプ生活が送れるか不安だった。しかし、一日を精一杯活動していくうちに楽しくて、楽しくて、そんな不安なんて無くなっていた。そこで、僕は楽しかったことを三つ挙げてみようと思う。

一つ目は、食事の時間だ。ジャンボリーでの食事はすべて、自分たちで作らなければならなかった。水くみから始まり、食材受け取り、食材切込み、かまど炊飯や調理、配膳……。切り方はバラバラだった、ごはんが焦げたり、鍋をひっくり返したりといろいろあったけど、みんなで協力して、作ったご飯を食べながら、今日の計画や、今日あった出来事を話したり、余った料理をだれが食べるかなどを決めるときなどがみんな笑顔だったからとても楽しかった。しかし、鍋洗いなどはものすごく疲れた。

二つ目は、他のサイトに行ってそこの隊の人との交流やプログラムに参加したことだ。他のサイトではいろんなプログラムが行われ

ていた。

参加したプログラムは丸太切りだ。直径40センチくらいの杉の木を150センチ位ある大きなのこぎりです人ずつ交代して切り落とした。切るときに2人の押したり、引いたりするタイミングを合わせるのが難しかった。時間は約8分かかった。その他には魔除けのドリームキャッチャーを作ったり、カルピスを飲んだアルミ缶で涼しそうな風車を作った。またスリングショットというパチンコゲームをした。日本一の火おこしゲームでは、班で挑戦して、制限時間内では竹ひごを焼ききれなかったけど、スタッフの人たちから、終わった時に『いいチームワークでしたよ、いい班ですね。』と声をかけてもらったときは、何とも言えないけれど、気持ちに満足感でいっぱいになった。

他の隊との交流は、東京の隊との交歓会だった。その隊のローバースカウトの人が昔、福岡20団でのカウトだったそうだ。交流会では地元のこと話したり、スタンプを見せ合ったり、ワッペンやTシャツを交換したりした。会の終わりにプレゼントとして更にもう一枚、東京港第3隊のシャツをもらったときはうれしくなった。

その他にも、ジャンボリーの間、道端で同じように別のたくさんの方

人たちとワッペンなどを交換した。このように、たくさんの人たちと話をして、交流ができて楽しかった。

三つ目は、開会式や大集会だ。

大集会では他県のスカウトのパフォーマンスや音楽ライブがあったりしてとても、楽しかった。また、その大集会でとても驚いたことがあった。それは、あの有名な宇宙飛行士の野口聡一さんが会場に来てお話をしてくださったことだ。

また、毎回、ジャンボリーにお越しになっている皇太子殿下もお越しになり、お言葉をいただいたり、手を振ってくださったりしてくれたので、みんなでものごとく盛り上がって楽しかった。大集会でのお席も僕たちからそう離れてなかったのも、とても近くで拝見できたので、感動した。

ジャンボリーは、楽しいだけでなくつらいことや疲れることもあったが、平成最後の夏にこれほどいい体験ができてよかったと思う。次は、東京であるそうなので、VSとして、参加したい。

17 2 5 9 感想

福岡第10隊 佐藤 環多
 草は生い茂り、虫もたくさんいた。
 20 場所がいそいそと汚いという事だ。た。
 でまともな（）も（）がでまゝにわけて、
 たいたいしいた。けれど一晩寝て、昼食を
 する頃には、いらいは穴にふくまていた。
 とれど、ろが、たいたいと、いという気持ち
 になつていた。開会式で、金田のスカウト

いけふどとてを海しかいつた。
にまゝていた。後から考へると、
う自分かう歓声をあげたり手拍子をするよう
やま(ぼく)乙歓声をあげていたけれど、そのう
た、大盛り上がりだ。はかの人は合わ

友情が、いゝで、いつし時間がかかたけれど
と無事に前にふたからよがりた。大集会で
は最初から、りりだつたから開会式よりして
盛り上げた。また皇太子殿下もいらして、

話をしてくれました。さらに「ニニニ」が上がり
りぎて倒れた人が何人かいた。

大会中、まじまじなフロアをうろちした。一番
奥、かゝたのは、うーんとゴルで相手の隊に
勝てた為と、もともと持ち良かった。また、ルル
とアいのいには、教えるくみた係の人や相手の隊
に感謝するべきだと思つた。

そして最後の閉会式、ニヤでふわりだと思
うと、少く悲しかった。悲しく、ふきとほす
ように応援した。最後のサキは、とてヒキ、い

でいに残つた。

この感動は、NとJ以外では絶対に味方云は
いと思つた。だから、4年後の東京NとJに
絶対に参加した。

最後は、NとJに付いて来てくいて、い
うな事を教えてくれた立花隊長、吉野「い」
「浅島上納班長、一緒に手伝つてくいたみ
んな、本当にありがとう！

福岡20団

学んだ事 松延 岬

僕は、日本スカウトジャンボリーを通して学んだことは、3つあります。1つ目は、仲間との協力です。ジャンボリーでは、水くみの係がありました。1人だと、時間がかかり、大変です。しかし、協力して行うことで、作業がスムーズに進みました。また、食材の準備やテントの設営など協力して行うことができました。

2つ目は、親のありがたさです。いつも家では、お母さんが料理や洗たく、買い物など、一人で全てをされていて、自分はあまり手伝っていませんでした。しかし、ジャンボリーでは食事の準備や洗たく、お皿の洗い物をすべて自分達でしなければなりませんでした。みなで協力して作業をしてもなかなか終わりませんでした。それをいつも一人でやっているお母さんはすごいと思いました。また、このジャンボリーに参加できたのは、親が僕を応援してくれたからだと思います。お金を出してくれたお父さん、準備をしてくれたお母さんの協力があってからこそ行けたと思います。なので、親に感謝して生活していきたいです。

3つ目は、食べ物のありがたさです。私達はいつもあたり前のようにご飯を食べていて、お金を払えばいつでも食べ物を食べることができます。ジャンボリーの時も、配給所に行けば、食材があたりまえのように揃って、あたりまえのように食べることがができます。世界には食べ物がなく、苦しんでいる人がたくさんいて、死んでしまう人も多くいます。そんな中私達が食べ物を食べているのは、とてもめぐまれていることだと思います。なので、食べ物を食べられてあたり前だと思わずに、食べられていない人の事も考え、ありがたいと思いがけようようにしたいです。

最後に、この日本スカウトジャンボリーで学んだことは、日々の生活に生かせると思います。例えば、部活での協力、家の中での感謝そして、食事のありがたさなど生活に重要なことと結び付けてくると思います。なので、この3つのことを頭に入れたがら、日々の生活を楽しく、そしておもしろく過ごしていこうと思いました。

僕は、夏休みに石川県で開催されたボーイスカウトの第17回日本スカウトジャンボリーに参加しました。

ボーイスカウトとは、「自分のことは自分で行う」「困難時に立ち向かえるスキルを身につける」「困った人を助ける」少年団で、世界に何千万人ものスカウトがいます。日本スカウトジャンボリーとは、日本中のスカウトが一堂に集まる祭りで、1週間テントで滞在し野外調理を行いました。

僕が最初におどろいたのは、石川県までバスで18時間もかかることでした。最初のうちは、楽しかったのですが、段々とお尻が痛くなり、きつくなりました。

朝九時に目的地に着いたら、直ぐにテント設営です。バスの中で、ずっと座っていた後のテント設営は、すごく大変でした。設営後は、荷物をコンテナに取りに行き、水くみに行き、食材を取りに行き等、1日目は休む暇なく直ぐに過ぎました。

食事作りは、自分達でつくったカマドを使い、水道がないので水汲みと排水も自分達で行わなくてはならず大変でした。でも片付けまで仲間と協力し合い頑張りました。

三日目は開会式があり、一万人以上のスカウトが一堂に集まりました。特に20人くらいで息が合うフラッグダンスの演技は迫力があり、すごくカッコ良かったです。

五日目は、ジャンボリー一大イベントとして、大集会がありました。宇宙飛行士の野口総一さんが来場し、更に皇太子殿下もごあいさつを下さいました。おどろいたことに皇太子殿下の席は、僕からほんの10m程後ろで、間近に拝見できました。周囲に護衛の人がたくさんいて、すごく重々しかったです。

ジャンボリーでは、様々なプログラムがあります。その中で、僕は丸太切りをしました。2mもの長さのノコギリを使い、二人で引き合い切るのので、動かすだけでも大変で、7分43秒かかってしまいました。1位のグループは、2分で切っていたので、悔しかったです。

閉会式では「もう1週間たったの?!」と感じ、本当にあっという間に時間が過ぎたように感じました。最後のスペシャルゲストは「北陸アイドル部」というマイナーなアイドルの登場でした。興味のある人となない人がくつきりと別れてしまい、最後におかしな盛り上げ方だなと思う反面、すごく印象に残りました。

帰りのバスでは、行きのバスでの反省を活かしタオルをお尻の下に敷きました。

最後にジャンボリーでの僕の自慢をあげます。1週間毎食、ご飯をモリモリ食べ、排便もまいにち出て、夜はぐっすりと眠ったことです。

苦しいこともあったけど、仲間と協力して活動でき、とても有意義で楽しかったです。

にほん かんそう 日本スカウトジャンボリーの感想

17th NIPPON SCOUT JAMBOREE を終えて

2018年8月11日 福岡20団 イーグル班 次長 村井隆敏

僕にとって今回のジャンボリーは、経験、友情、協力のある素晴らしいものになりました。いろいろなことに挑戦していくうちにスキルや力が身に付きました。

何とんでも全国から集まったスカウト達と交流が広がり、いろいろな文化にふれあうことがこの大会の醍醐味だったと思います。

そして、ジャンボリー大集会ではスカウトがそれぞれの文化を披露し、楽しむのと同時に勉強にもなりました。

自分達のテントである福岡の future テントでは炊事を日替わり担当で割り振りをし、どこがいけなかったかを見直し改善することを繰り返しました。その中でも炊飯は火加減がとても難しく、自分達が苦勞した部分だと思います。



日本一ゲームの火おこしでは薪を担当しました。もっと速く切っていれば自分たちは勝てたのだと後悔しました。とても難しかったので成功した人達を見習いたいです。

スカウトジャンボリーは、有意義なキャンプ生活を送れるので、だれもが行きたくなるような楽しい大集会です。

次長最後の夏は、なにより班員と親交を深められたことが僕の最高の思い出になりました。



ジャンボリーとしてもたの
しか、たです、一番楽し
か、たのは大集会で、特に、
ライブが楽しかったです
バリバリになって汗びっしょり
になって、とても暑か、た
です。

あとおもしろかった事があり
ます、Tシャツは10まいあるのに
ズボンが3まいしかなかった
のではく笑しました、
とても楽しか、たです。

新

ぼくのジャッポリー日記

麻生 瑛介

ジャッポリーの前日ぼくはドキドキして
いました。今年ボーイに上進し、一番のビッ
ベストのジャッポリーに参加でき、うれしか
ったのです。

いよいよ出発です。バスの中は、ねごとち
が悪くさうくつだ。たけど、みんなとあ
とどのくらいだろうと話しあいながら過
しました。

会場につくと「や」とついたら、みんなの
感動の声があがりました。

ぼくたちのサイトの近くには、給水場、ト
イレ、お風呂などがあり、たためとても便利
な場所でした。しかしそこから、隊長が、「コン
テナの荷物を取りに行つてこい」といい、み
んなで裸しに行くと、なかなか見つからな
く、赤きまわった結果、見つかりました。コン
テナの荷物は重かったです。

テントを建てはじめるとみんな熱くてぐだ

ぐだしてたけどなんとか、建ておわりました
次の日、いよいよ本格的なキャンプのはじ
まりです。いよいよ本格的なキャンプのはじ
まりです。いままで訓練してきたことができ
るか不安だ。だけど、5時30に起床、朝飯を
作りはじめました。班長がみんなに指示をし
てくれて、みんなもてきぱき働いたので一時
間で作りあけることができました。そのご飯
は、みんなで作ったため、自分一人で作っ
たご飯よりおいしか。たし、話しながらみんな

と作れて楽しか。たです。さらに、テントで
の夜や活動もみんなで楽しくできて、すで
くいい思い出になりました。

これから、この日本スカウトジャンボリー
で学んだ仲間とともに力を合わせる大切さを
活していきたいです。

日本スカウトキャンプの感想

麻生 好華

初めての日本スカウトキャンプはとても楽しかったです。
当日までバスで日通しするのが楽しみでした。最初はたくさん
おしゃべりして楽しかったとたんと言題がなくなりひまになりまよ
夜は何度か目がさめたけど以外とねれました。そして十時ころ
につきました。外はとても暑くて、バスにたいほとでした。
キャンプ場につくとそこは草がおびえていてバタが
たくさんいて動きずかったです。コンテナから荷物をだし、あ
とテントをたてはじめました。とても暑くて動きたくあ
りませんでした。

次の日もとても暑かったです。冷めた飲み物がなく、暑いままでし
お昼はプラザ(お昼にきました。そこには冷めたジュースがたくさん
ありました。ボーイスカウトグッズが売っているところに行き
ました。たくさんの方が並んでいてほしいのがあったので
30分くらい並みました。お買物ができました。

大集会では知っている歌がきかれてとても楽しかったです。
いはんをつくるのに何回も失敗したけどおがずかないとき
はなくてよかったです。たくさんうかんをしてターフ、三枚から
約20枚のフペンと交かんでみてよかったです。イギリスの人
とも交かんでたのが面白かったです。約一週短か、たけど
とてもまんぞくできてよかったです。次の東京ももし高2のころ
行けたらぜひ行きたいです。

楽しかった。ただそれが僕にとっで最高じゃなかったと感
とから学ぶとができたから失敗や苦しいと感
を動かすとした。初日は慣れたこととは班
きが悪かった。日を重ねるにつれて慣れがら動
て動きが良くなった。椅子に座る回数が多くな想
り全然動かなくなてしまった。それを動
にかすのが班長の役務だと思った。しかし上手
にできず自分の力の無さを感じただからその時
し班員が動かなくな持ち上げたりは楽
たいと思う。元気が出るような指示をし
たい。何より楽しかった。友情がしいは。上級班長と新と
の友情がしいは文字をそろえてゴールするの
ではなく。いろんな県や国のスカウトと会
て話して交換するものだ。交流する楽しさ
僕が初対面の人に話しかけ、交流する楽しさ
も知った。たくさんの人と交流して交換をし
とても良い思い出となった。良かったところ、悪か

ところを含めて、この経験をもし世界ジャッポ
リーに行けたら生かしていきたい。また、この
の経験をさせてくれた隊長、副長、親身して
上級班長に感謝したい。